「新しい東北」官民連携推進協議会 平成30年度福島県意見交換会（第１回）
事務局提出資料

資料1

１．平成29年度活動記録・実績

（１）活動記録

● 第1回（２／２４（金））	● 第2回（６／１４（水））	● 第3回（９／６（水））	● 第4回（１２／４（月））	● 第5回（３／２９（木））
• 意見交換会の趣旨等説明	• イベントを通じた人材のネットワークづくりについて • ふるさと・きずな維持・再生支援事業 • 福島県の人材関係施策の洗い出し 等について意見交換を実施	• 「日本酒」を核にしたネットワークづくり • 福島県の人材施策マッピング 等について意見交換を実施	• 地域づくりハンズオン支援事業（東北における事業型NPOのビジョン策定 • 日本酒･酒器の組み合わせ 等について意見交換を実施	• 日本酒･酒器の組み合わせ • 来年度意見交換会 等について意見交換を実施

（２）福島県産品・伝統工芸品のＰＲ　概要

日本酒と酒器の組み合わせを楽しむなど、福島県の産品・伝統工芸品のＰＲについての議論の具体化を行った。

●福島県観光物産館リニューアルオープンに合わせた取組
・平成29年12月16日（土）にリニューアルオープンした福島県観光物産館にて、日本酒と酒器などを入れて持ち運べる小箪笥のセットを展示。
・オープンバーでは日本酒と酒器の飲み比べセットを販売。

●Fw:東北 Weekly（平成30年2月22日（木）/Yahoo! LODGE）
・福島県観光物産館での取組事例・福島の伝統工芸品等の紹介
・伝統工芸品をライフスタイルに浸透させること、Made in Fukushimaで統一した商品をつくることについてのアイデアソンを実施

２．平成30年度活動の方向性

○　意見交換会の目的を、復興庁事業の各メンバーへの紹介、メンバー間での情報共有を行うことで、情報共有・課題解決の窓口としての取組と位置づける。

○　メンバーによる「新しい東北」官民連携推進協議会の週次の交流の場（Fw:東北Weekly）への関与等を行い、具体の課題解決の実践を通した課題解決に向けた連携の事例を創出する。

第１回（５月）

○　今年度の各メンバーの活動の紹介

○　今年度議論するテーマの決定

○　Fw:東北Weeklyに向けた今後の進め方の整理

第２回（９～11月）（予定）

○　各メンバーの最近の活動の紹介

○　テーマについての議論

○　Fw:東北Weeklyの設計

Fw:東北Weeklyの実施

「新しい東北」交流会での活動状況紹介

第３回（１～３月）（予定）

○　各メンバーの最近の活動の紹介

○　テーマについての議論（ Fw:東北Weeklyの振り返りを含む。）

○　次年度の活動方針の議論

※　議論の状況に応じ、各回の間に事務局からの連絡、意見交換会の追加の可能性がある。

３．平成30年度のテーマ案

●昨年度報告書の提案

・平成29年度第５回の意見交換会においては、平成30年度の意見交換会のテーマについて、県産品や伝統工芸品等のPR、地域の担い手及び県外支援者の定着に関する意見が寄せられた。

・平成30年度第１回の意見交換会においては、下記の提案を含め、平成30年度に扱う課題を議論、決定する。

（１）福島県産品・伝統工芸品等のPRに関する論点の整理

①人にフォーカスした産品・伝統工芸品等のPR

● 寄せられた意見

✓ 平成29年度に取り組んだ日本酒と酒器の組み合わせを通じた、福島県の産品・伝統工芸品のPRについて、さらに強化していく方向が望ましいのではないか。

✓ 酒ではなく、蔵元、杜氏、窯元など、人の顔の見えるような提案をしていくと、更にアピールできると考える。

<u>平成30年度の活動イメージを描くための検討事項</u>

▼ フォーカスする対象を絞る

・人にフォーカスを当てることで何を目指すのか
・食・観光・伝統工芸など、地域資源に関わる産業の担い手についての課題の確認
・販路開拓にあたり必要な担い手とは

３．平成30年度のテーマ案

（２）担い手に関する論点の整理

②地域の担い手定着

- 寄せられた意見

✓ 地域の担い手の定着促進に向けた、人にフォーカスした取組というのを意見交換の場などで横展開できないか。

✓ 新聞報道ではかなり定着しているといわれているが、報道とは乖離があるとの実感からの問題意識。

③県外支援者の定着

- 寄せられた意見

✓ 復興支援で東京都など福島県外から入ってきた方々が、ある程度活動を終えて帰るだけではなく定着できるには、どのような方策が考えられるか。

<u>平成30年度の活動イメージを描くための検討事項</u>

▼「担い手」の人物イメージを絞る

・県内産業を担う人物か、それ以外の人物か
・リーダー（起業家や経営者）となる人物か、現場の活動に従事する人物か
・地域おこし協力隊・復興支援員との関連性

▼ 「担い手」を必要とする背景を明らかにする

・なぜ担い手定着のための活動が必要なのか
・全国で人口減が確実となっている状態での担い手定着とは
　a. 県外からの流入策で他県と競争する（JIターン）
　b. 県内人材の流出防止or呼び戻し(Uターン)
　c. その他

３．平成30年度のテーマ案

（３） 今年度のテーマを決める

▼テーマと成果について

・テーマ・目的の設定（本意見交換会で立てる「問い」を定める）

・成果の設定（何が達成できればよいか）

▼ 実施メニューを決める

・Fw:東北Weeklyの活用
  a. アイデアソン、セミナー、シンポジウムなどの形式
  b. 東京開催か県内開催か

・調査を行う場合
  a. 実施費用および体制
  b. 調査のゴール設定（結果をもとに提言を行う、各団体の次年度事業に活かすetc.）

・次回以降の意見交換会に参加を要請すべきセクター、団体等